

# シンポジウム

女性が語る小児歯科の魅力 –更なる可能性を探る–

座長:藤原 卓

## – 地域に支えられ開業、そして地域のオーラルヘルスケアを支援 –

(医)高慈会高野歯科クリニック 理事長 高野 博子



### 略歴

1974 桜蔭学園高等学校卒業  
1980 東京歯科大学卒業  
1980 東京歯科大学小児歯科学講座大学院入学  
1984 東京歯科大学小児歯科学講座助手  
1987 歯科高野医院開業  
1987 東京歯科大学非常勤講師  
1995 医療法人社団高慈会高野歯科クリニック開業  
2009 日本小児歯科学会専門指導医

日本小児歯科学会副理事長  
日本小児歯科学会関東地方会会長  
日本小児歯科学会女性小児歯科医委員会委員長

先日、新聞のコラムに『子どもは苦手、と言う人も一度は「可愛いな〜!!」としみじみ眺めたことがあると思います。自分の子どもに関しては感動の日々ですし、孫にいたっては「目に入れても痛くない」とデレデレ状態かもしれません。私は、診療室で1日20人以上の子どもたちと関わって仕事をしているおかげで、子どもたちから、毎日元気をもらっています。何より小児歯科は歳を重ねれば重ねるほど味がでてくる領域です……子どもたちにとって身近で積極的に子どもの診療に目を向けてくださる「かかりつけ歯科医」が必要です。子どもたちは宝物、子どもたちの純粋な笑顔はかけがえのないもので、診療を通じて心が熱くなる出会いがたくさんあります。皆さま、小児歯科学会に入会しませんか?』と書かせていただきましたが、私は、日々の診療が面白いですし、楽しいです。大人だけを診ている先生方から「仕事は飽きた、早く辞めたい」となどと聞くと、可能性を秘めた子どもたちを相手にしている小児歯科は魅力的で、小児歯科医であることに感謝します。

私の開業している葛飾区は、東京23区内ですが、人情味あふれる下町気質が残り、2世帯3世帯の家族も多い地域です。私は、そこで生まれ育ち、0歳と2歳の子育てをしながらの開業でした。育児・家事・仕事と、ワークライフバランスを取ることは難しいこともありましたが、小児歯科での開業は、母親として保育園時代から子どもを通じて地域とのふれあいがあったこと、経験者として子育ての喜びや悩みが共有出来ること、母親の相談や母親自身の健康の課題を受け止めやすいことなどから、女性医師として地域に根付き、支えられてきました。これからは、恩返しでもあり、ホスピタリティを大切に、地域のオーラルヘルスケアを支援していきたいと思います。

また、今回のシンポジウムで、小児歯科学会女性小児歯科医委員会の一員として若い先生方に「一人で頑張りすぎないで」というメッセージを送ることができたらと思います。